

第2章 教科に関する調査の分析

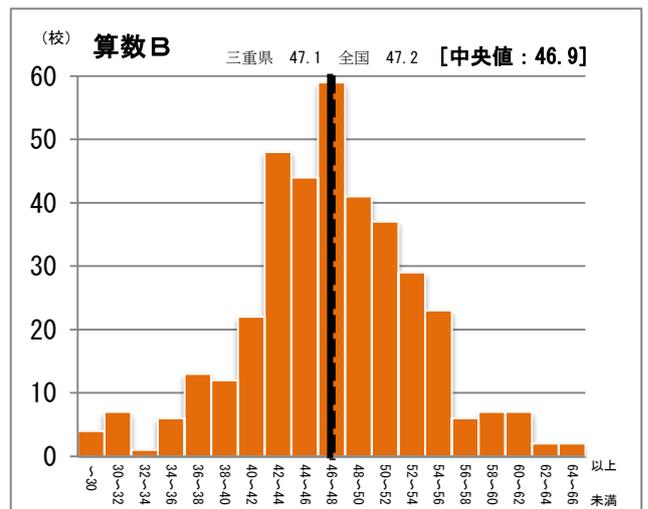
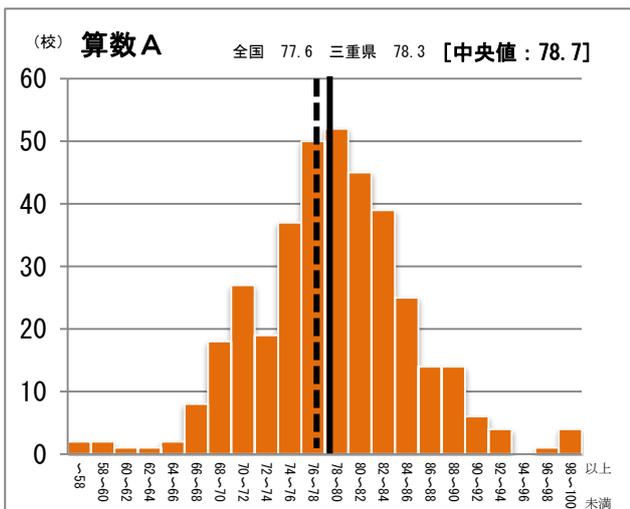
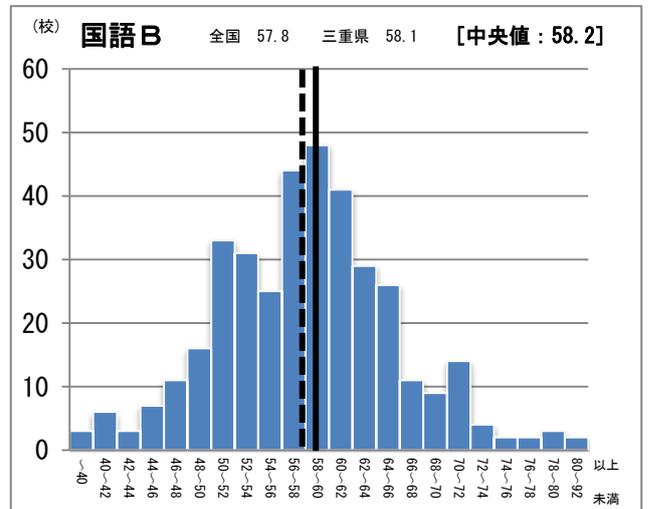
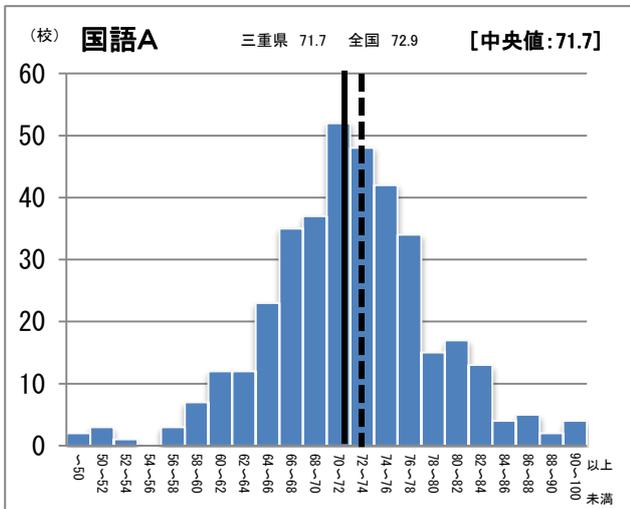
1 小学校

平均正答率による学校の分布

各教科において改善が進んでいます。今後も、学校ごとの分析を踏まえ、各学校の課題に応じた取組を進めましょう。

「国語B」と「算数A」は、昨年度に引き続き改善が進み、全国の平均正答率以上の学校の割合が更に増加しました。その結果、「国語B」と「算数A」は全国の平均正答率を上回りました。

また、「算数B」も全国の平均正答率以上の学校の割合が増加し、改善が見られます。



※各教科の全国の平均正答率を上回る学校数

教科	国語A	国語B	算数A	算数B
H28	156 校 (42.2%)	194 校 (52.4%)	214 校 (57.8%)	175 校 (47.3%)
H27	139 校 (37.2%)	185 校 (49.5%)	180 校 (48.1%)	157 校 (42.0%)

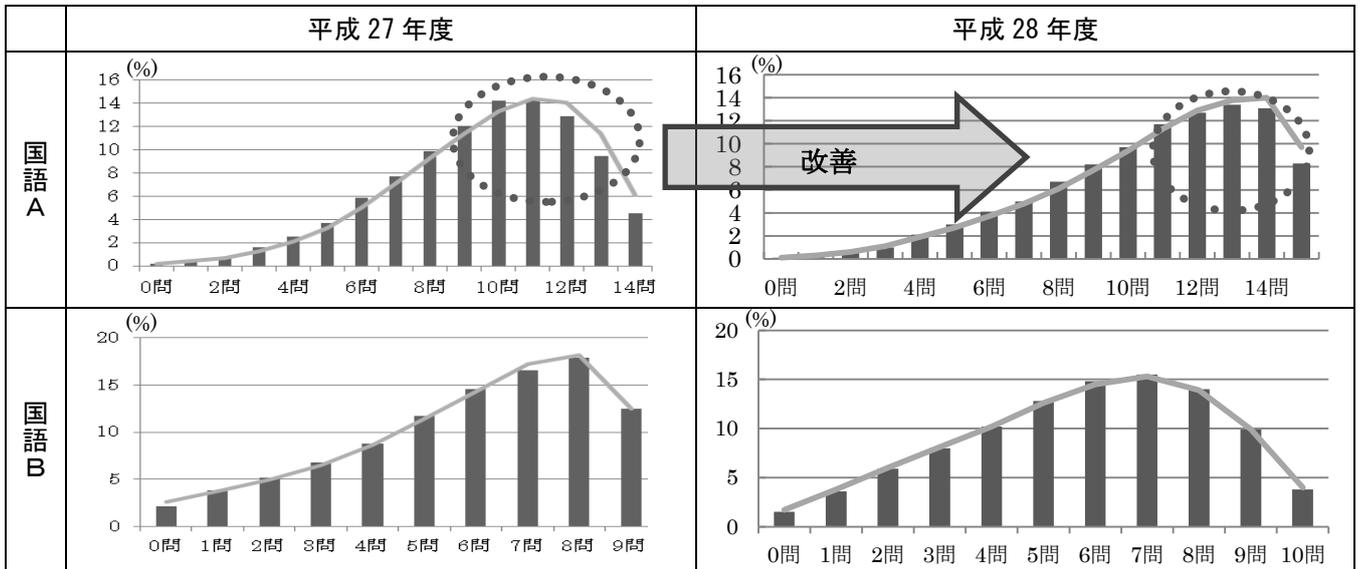
正答数の度数分布

正答数による度数分布グラフを各教科2か年分並べ、昨年度からの変化を見ていきます。

(1) 国語

「国語A」では、正答数が多い分布の割合が高くなっており、改善が見られます。

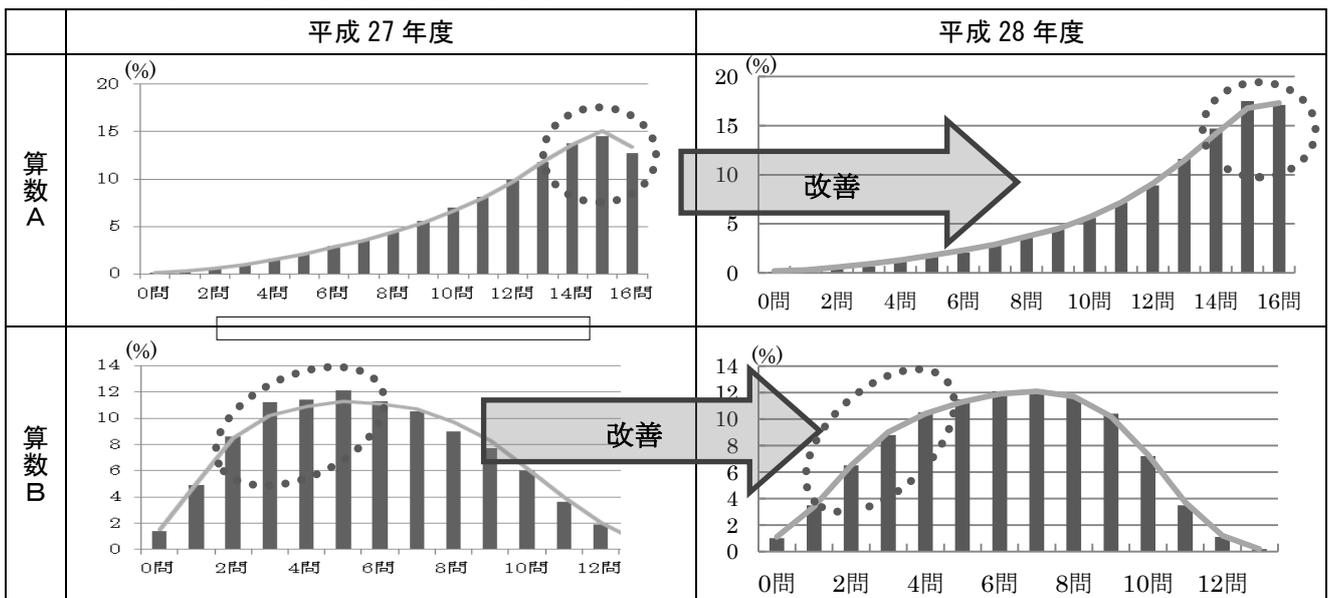
「国語A」「国語B」ともに、全国の分布とほぼ同じ形になっており、正答数の割合において、全国との差が縮まり、平成27年度から更に改善が見られます。特に、「国語A」では、正答数が多い分布の割合が全国の割合に近づいており、改善が見られます。



(2) 算数

「算数A」では、正答数が多い分布の割合が高くなっています。「算数B」では、正答数が少ない分布の割合が低くなっており、ともに改善が見られます。

「算数A」「算数B」ともに、全国の分布とほぼ同じ形になっています。「算数A」では、正答数の多い分布の割合が全国の割合に近づき、「算数B」では、正答数の少ない分布の割合が低くなっていることから、平成27年度から更に改善が見られます。

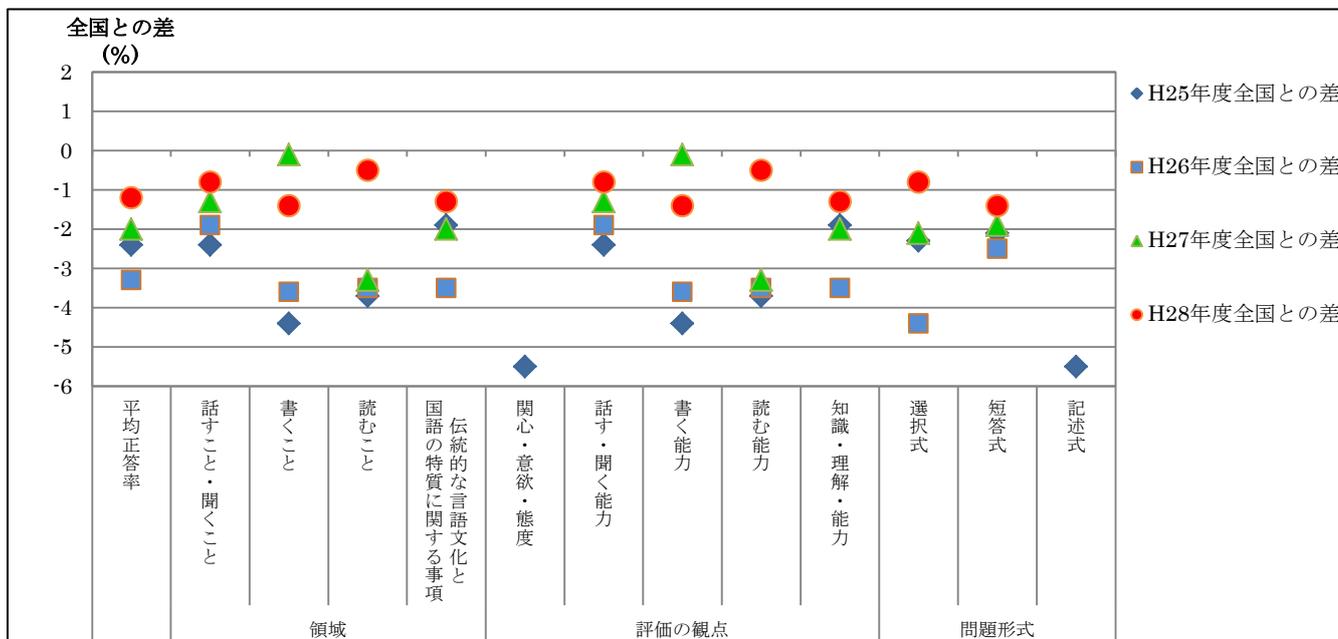


領域、観点、問題形式別分析

(1) 国語A

「読むこと」「読む能力」には顕著な伸びが見られます。一方、「書くこと」「書く能力」にはやや課題が見られます。

多くの項目で、昨年度に引き続き改善が進んでいます。特に「読むこと」「読む能力」については大きく改善が見られます。「書くこと」「書く能力」については、昨年度大きく改善が見られたものの、本年度はやや課題が見られます。

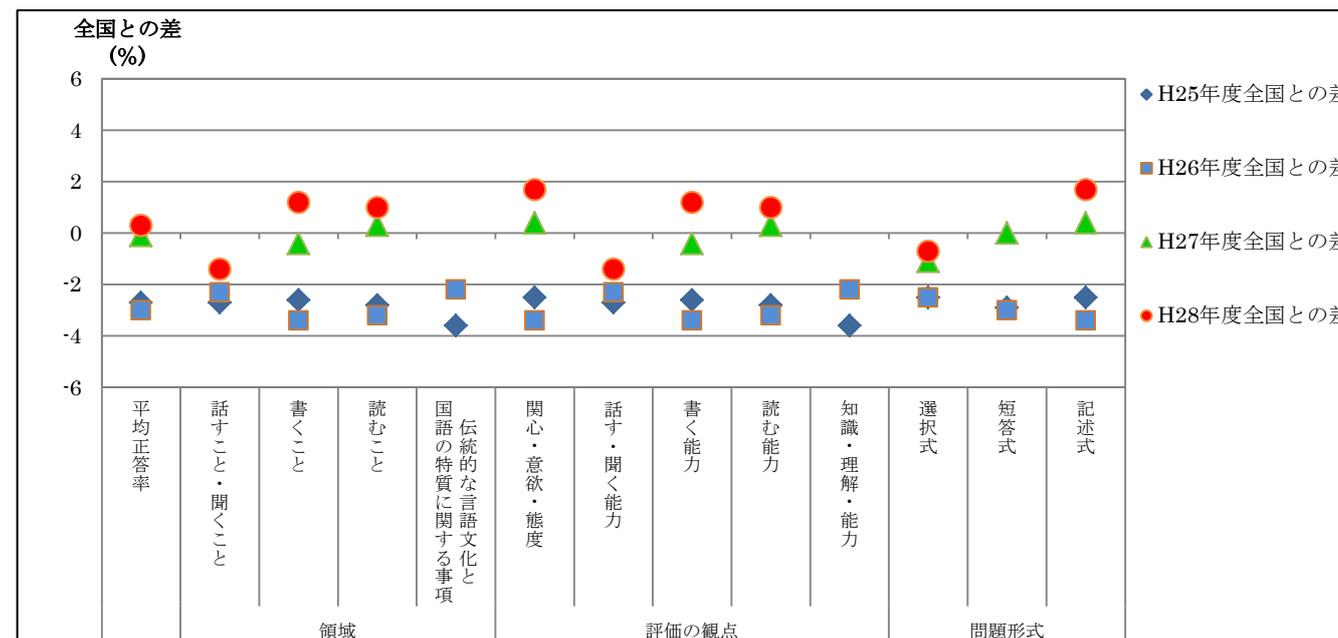


※該当の出題がない年度には印がありません。

(2) 国語B

全体的に改善が見られる中、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」にはやや課題が見られます。

昨年度に引き続き改善が見られます。特に課題とされていた問題形式では、「記述式」で改善が見られます。「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」にはやや課題が見られます。

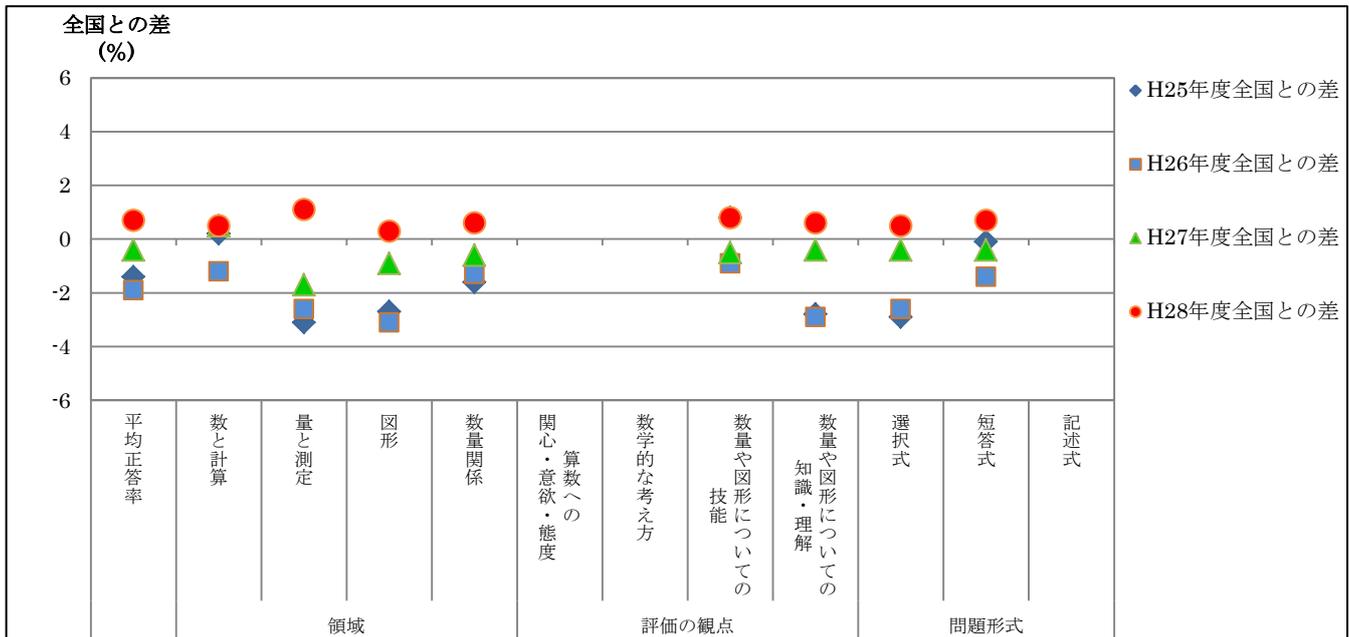


※該当の出題がない年度には印がありません。

(3) 算数A

改善が見られた昨年度より更に全ての項目で改善が見られます。特に「量と測定」で大きく改善が見られます。

昨年度に引き続き改善が見られます。特に「量と測定」の領域では、大きく改善が見られます。

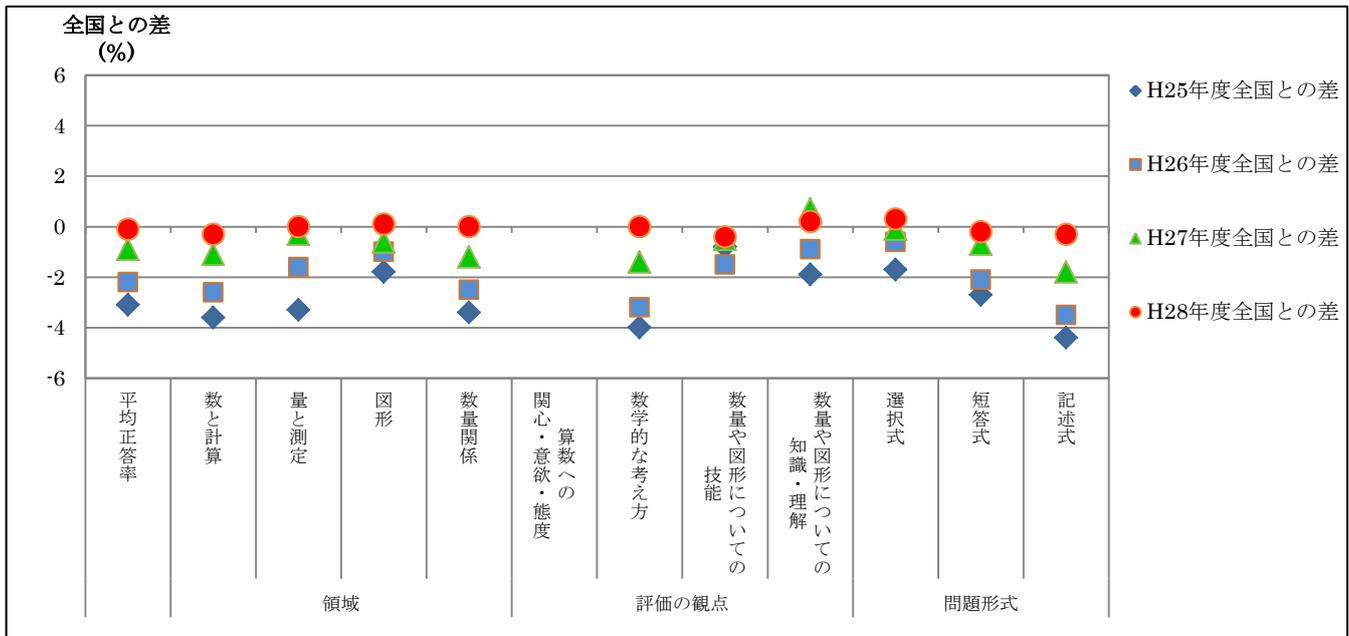


※該当の出題がない年度には印がありません。

(4) 算数B

ほとんどの項目で改善が見られますが、「数と計算」ではやや課題が見られます。

「図形」「数量や図形についての知識・理解」「選択式」で全国の平均正答率を上回る状況となっています。「数と計算」や「数量や図形についての技能」、「記述式」でやや課題が見られます。



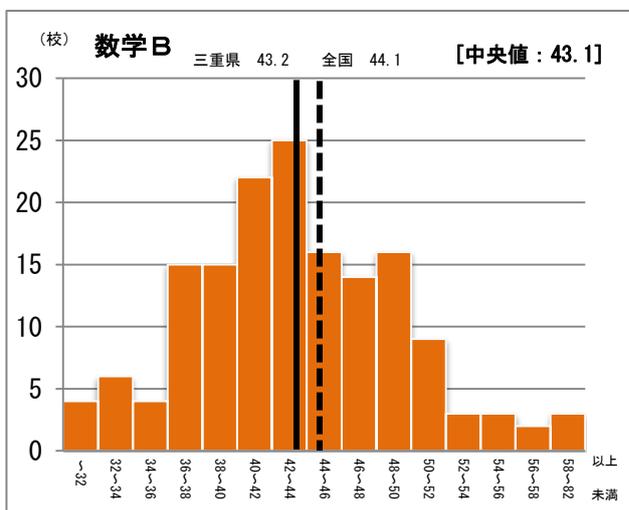
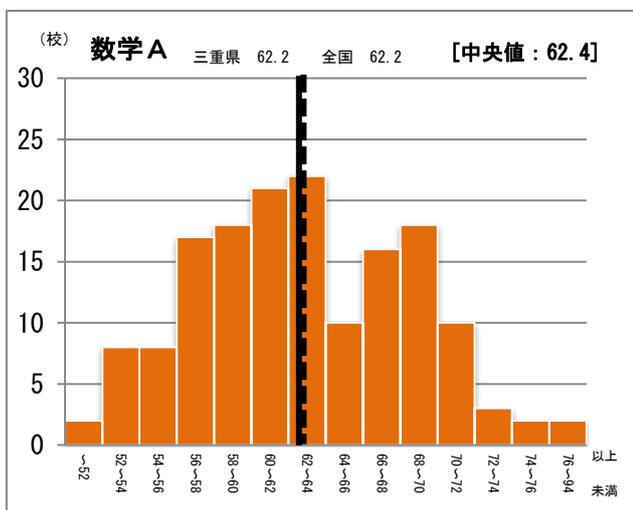
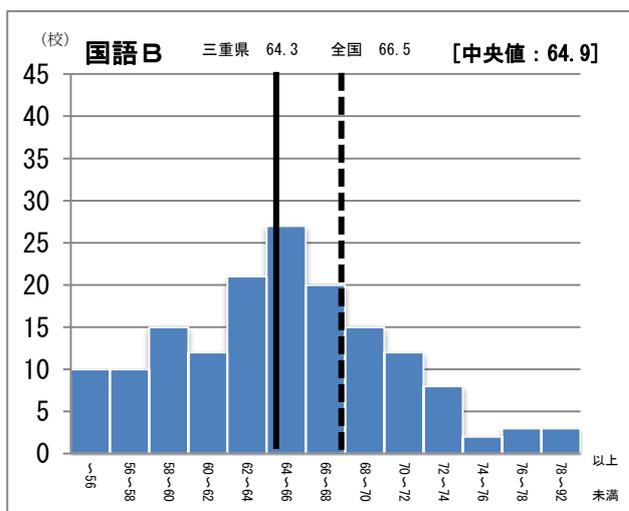
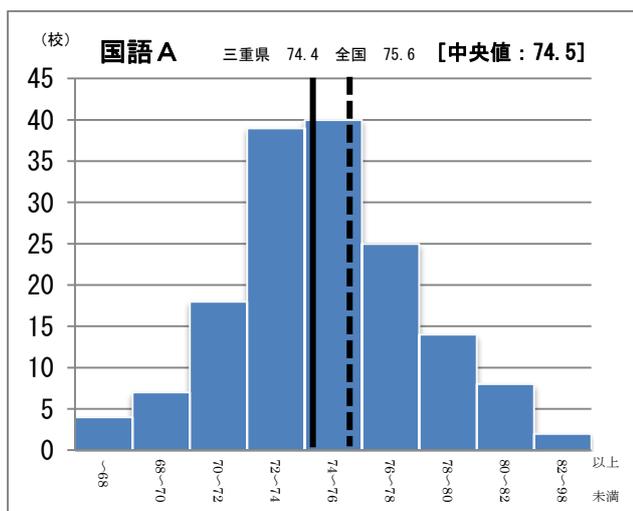
※該当の出題がない年度には印がありません。

2 中学校

平均正答率による学校の分布

「数学A」で改善が進んでいるものの、他の教科については、昨年度とほぼ同様の傾向が続き、改善が必要です。

「数学A」は、全国の平均正答率以上の学校の割合が増加し、全国の平均正答率に並び、同水準となりました。しかし、他の教科については、昨年度とほぼ同様の傾向が続き、改善が必要です。



※各教科の全国の平均正答率を上回る学校数

教科	国語A	国語B	数学A	数学B
H28	54校 (34.4%)	58校 (36.9%)	80校 (51.0%)	62校 (39.5%)
H27	67校 (41.6%)	57校 (35.4%)	81校 (50.3%)	66校 (41.0%)

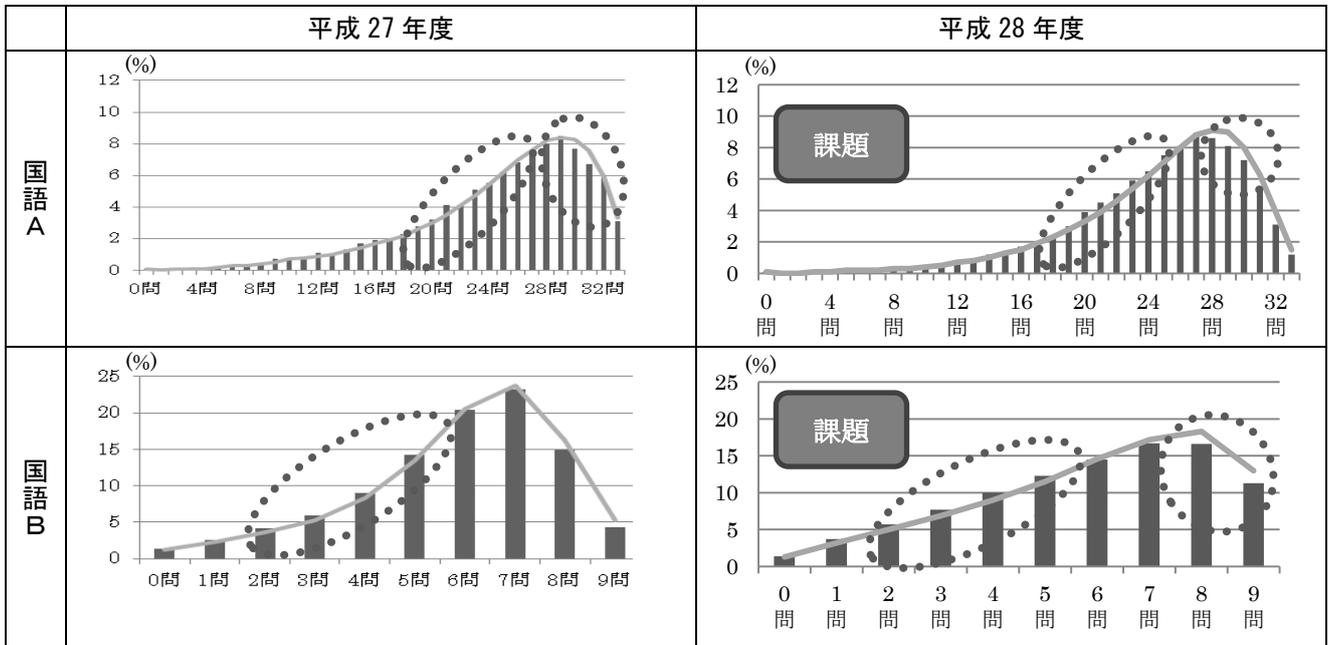
正答数の度数分布

正答数による度数分布グラフを各教科2か年分並べ、昨年度からの変化を見ていきます。

(1) 国語

「国語A」「国語B」ともに、正答数の低い割合が全国と比べ、やや多い状況です。

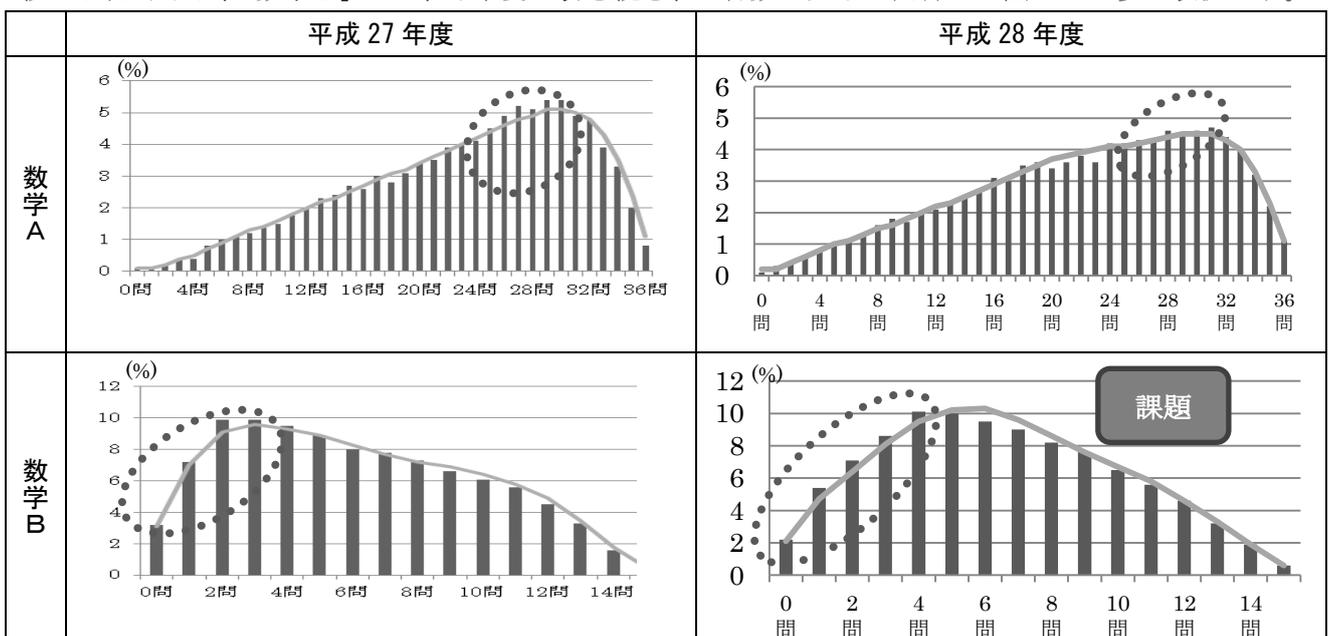
「国語A」「国語B」ともに、正答数の低い割合が全国に比べて、やや多く分布し、課題が見られます。また、正答数の多い割合が全国に比べて、やや少ない状況です。



(2) 数学

大きな変化はなく、全国の分布とほぼ同じ形になっています。

全国とほぼ同様の分布となっていますが、「数学A」では、正答数が多い割合が昨年度の全国との比較より低くなり、「数学B」では、昨年度に引き続き、正答数が少ない割合が全国に比べ多い状況です。

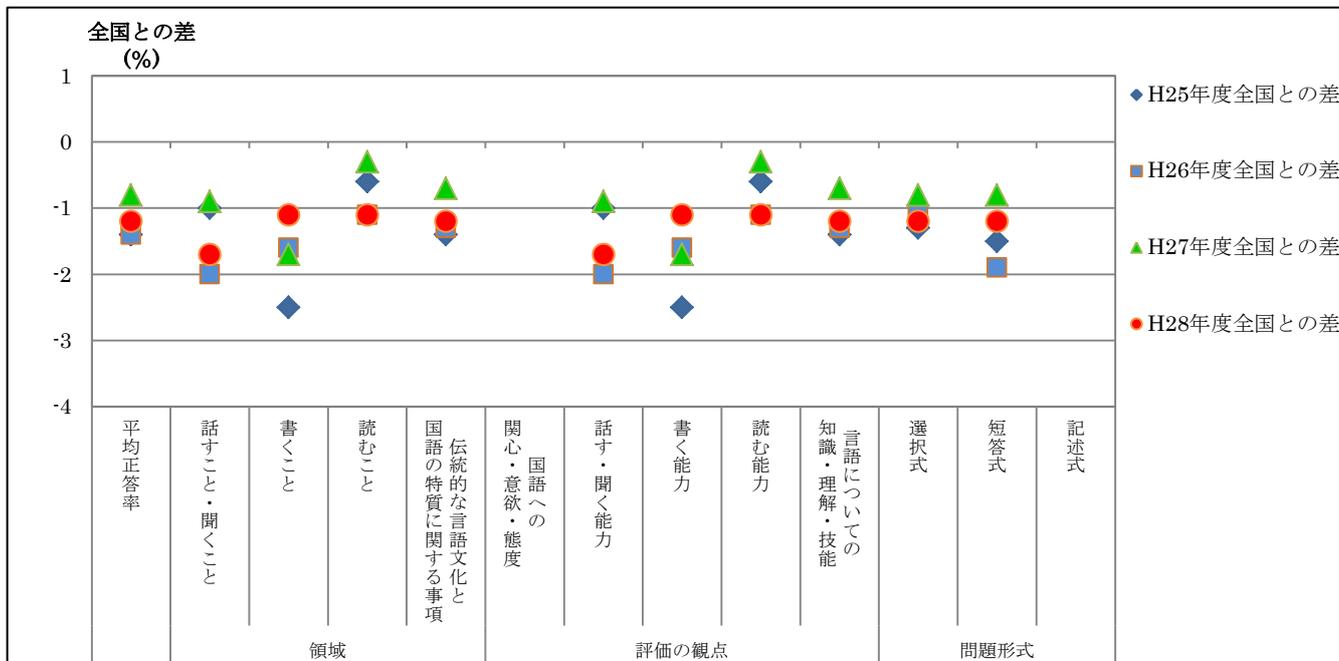


領域、観点、問題形式別分析

(1) 国語A

「書くこと」「書く能力」においては改善が見られますが、全ての領域で課題が見られます。

「書くこと」「書く能力」については、改善が見られます。しかし、全ての領域で課題が見られ、特に、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」については、大きく課題が見られます。

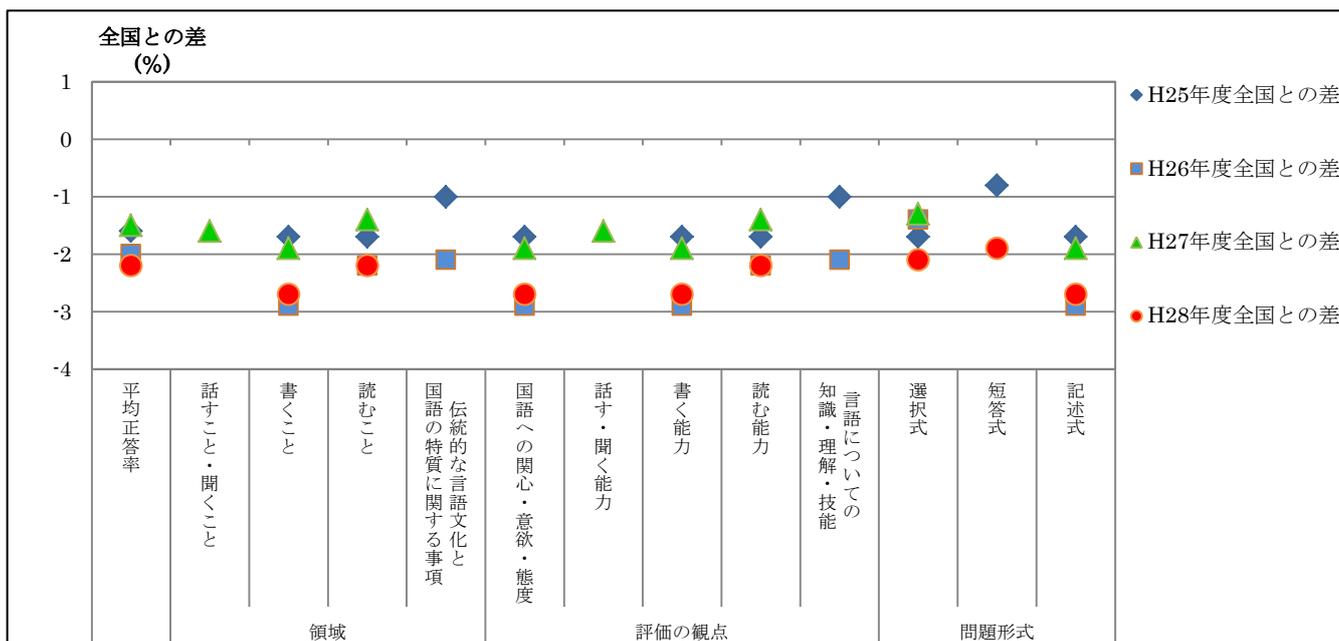


※該当の出題がない年度には印がありません。

(2) 国語B

全ての項目で課題が見られます。特に「書くこと」には大きな課題が見られます。

全ての項目で、課題が見られます。特に、「書くこと」「書く能力」、「国語への関心・意欲・態度」や「記述式」に大きな課題が見られます。

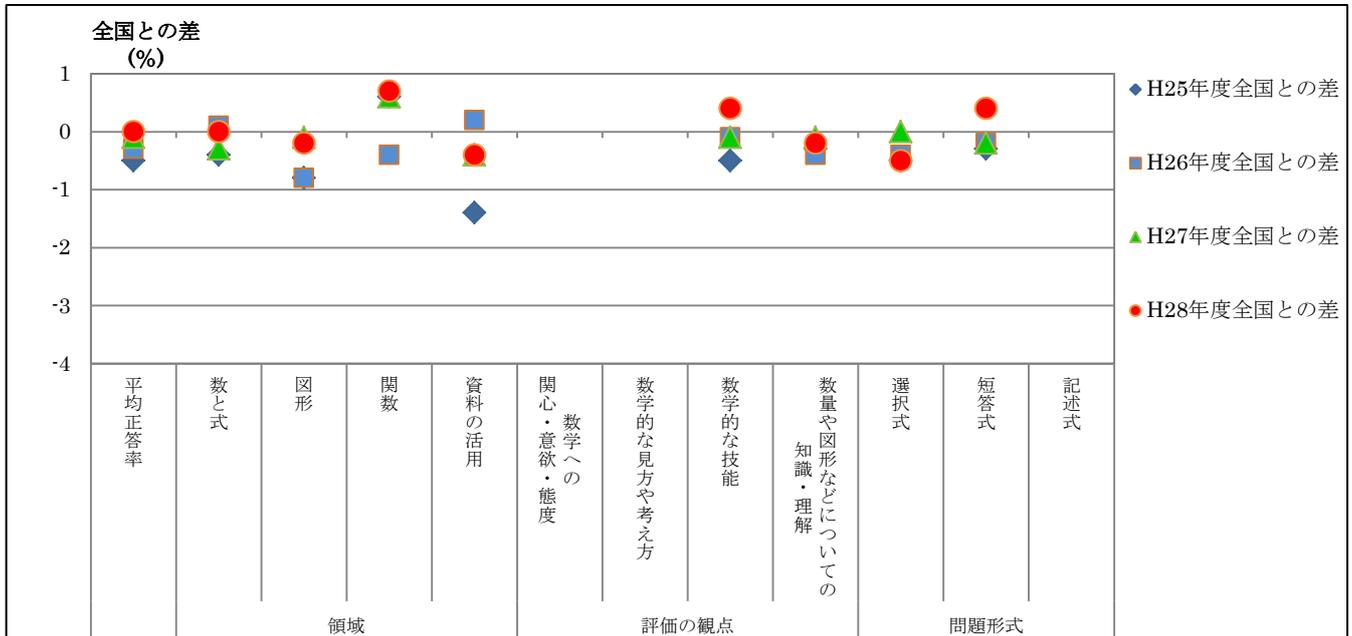


※該当の出題がない年度には印がありません。

(3) 数学A

「数学的な技能」で改善が見られますが、「資料の活用」に課題が見られます。

多くの項目で改善が見られます。特に、「数学的な技能」「短答式」で改善が見られます。一方、「図形」「資料の活用」「選択式」に課題が見られます。

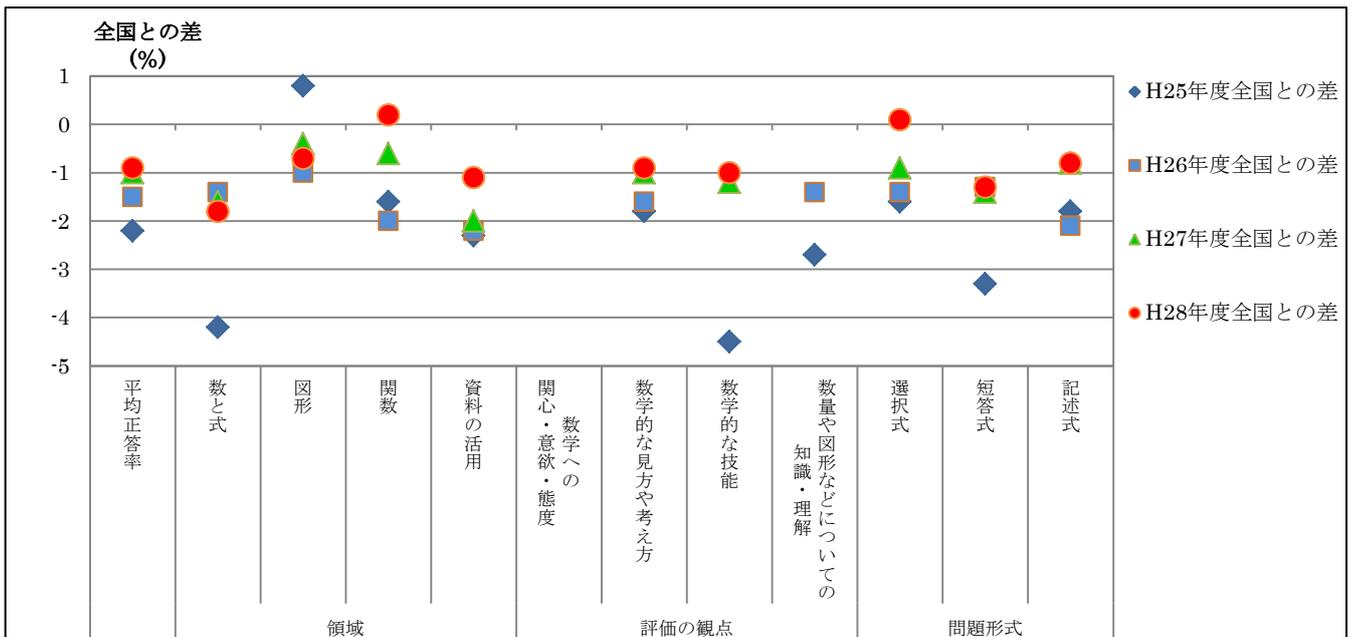


※該当の出題がない年度には印がありません。

(4) 数学B

「関数」で改善が見られますが、「数と式」「資料の活用」に依然として課題が見られます。

多くの項目で、昨年度に引き続き改善が見られます。特に、「関数」「資料の活用」で大きく改善が見られます。一方、「数と式」「資料の活用」などでは、依然として課題が見られます。



※該当の出題がない年度には印がありません。

「漢字の読み書き」に、継続的に課題が見られます。

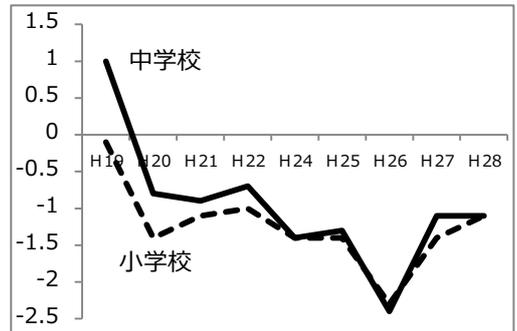
小中学校ともに、国語Aにおける「漢字の読み書き」の問題では、「書き」はもとより「読み」や「適切な語句の選択」等にも課題が見られる状況が続いています。

各学年において配当漢字を正しく読み書きできるよう指導するとともに、その定着を図るための機会を意図的・体系的に設定し、文や文章の中で適切に使うことができるようになるなどの指導の工夫が重要です。

独自の漢字検定を取り入れるなど、子どもたちに達成感を味わわせながら定着を図る取組を進めている学校もあります。

【関連：第6章P.74～】

【「漢字の読み書き」問題の平均正答率と全国平均との差】



中学校国語ABで、継続的に成果が見られる学校の取組では、主体的・協働的な学びの視点による学習指導が行われています。

中学校の国語において、継続的に成果が見られる学校では、課題解決に向けた主体的・協働的な学びの視点による学習指導を取り入れたり、図書館資料を活用した授業を計画的に行ったりしています。生徒が自らの課題を明らかにし、基礎的・基本的な知識・技能を活用して他者と相互に思考を深めたり、まとめたりしながら解決するような指導や、多様な方法で選んだ本・新聞などの資料から適切な情報を得て、自分の考えをまとめるような指導が求められています。

下の表は、成果が見られる学校の割合と課題が見られる学校の割合との差が大きい項目です。

番号	質問項目	成果が見られる学校	課題が見られる学校	差
(19)	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	100%	61.5%	38.5
(44)	授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	100%	65.4%	34.6
(21)	生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	76.2%	46.2%	30.0
(17)	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	90.5%	61.3%	28.8
(46)	生徒に対して、資料を使って発表ができるよう指導しましたか	95.2%	69.2%	26.0
(24)	前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか 「週に1回程度、または、それ以上行った」「月に数回程度行った」「学期に数回程度行った」と回答した割合	71.4%	50.0%	21.4
(55)	国語や数学において、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、生徒の資質・能力がどのように伸びているかを、生徒自身が把握できるような評価を行いましたか	85.7%	65.4%	20.3
(96)	家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか【国語・数学共通】	85.7%	65.4%	20.3
(111)	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	100%	80.8%	19.2
(54)	国語や数学において、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等の多様な活動に取り組みさせることにより、ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行いましたか	95.0%	76.9%	18.1
(38)	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか	100%	84.6%	15.4